

中学生区分 愛知県最優秀賞作品

「知る事は力になる」

長久手市立南中学校 三年

佐々木 優真
ささき ゆうま

数年前、僕は先天性四肢欠損症の女の人を街中で見かけた。

もし、何の知識もなかったとしたら、とても驚いたと思う。けれど、テレビのニュース番組で、先天性四肢欠損症でありながら、有名なコメンテーターとして活躍している方を拝見しているので、その女性を見ても、そこまで驚きはしなかった。

それとは違う意味で、僕は、「あっ」と思った。ちょうどテレビの特集で、愛知県の先天性四肢欠損症の女性の方のドキュメンタリーを見たばかりだったからだ。一緒にいた母は近寄り「応援していきす」などと話しかけていたが、何を言っているのかわからず、なんだか恥ずかしくて僕は黙っていた。

今にして思えば、思い切って話しかけてもよかったかもしれない。テレビを見て感動したことを伝えればよかった、と後悔している。

ドキュメンタリーの中で、彼女は体に障害があるというだけで、他の若者と変わることなく、おしゃべりをして毎日笑顔で楽しく過ごしており、見る人に勇気を与える存在だった。

そして、目を引いたのは、彼女が乗っていた昇降機のような物がついた車椅子だった。その車椅子は、隣に立っている人に合わせているようで、かなりの高さまで伸びていた。僕は機械に関心があるので、どんな仕組みなんだろう、と興味を持った。

以前行ったことのあるトヨタ産業技術記念館では、昔の織機に始まり、どんどん改良が重ねられ自動織機へと発展していく様子を、解説つきで廻るのはとても面白かった。開館前に並んで入場し、閉館するまで一日滞在したけれど、全然飽きることなく、大変興味深かった。

そんなことを思い返しつつ、車椅子の仕組みについて考えると、安全性はどうなのだろうか、台座が

大人の腰ぐらゐの高さまで上がっているのに、シートベルトをせずに大丈夫なのだろうか？ 段差でつまづいて倒れたりはしないのだろうか？ と心配になつたりもした。

僕は将来どんな仕事をしたい、という明確なビジョンは定まっていない。けれど、理系の大学へ進学して、機械工学のような勉強ができれば楽しいだろうな、と漠然とは思う。

そして、自分の好きな事・やりたい事が、誰かの役に立つことに繋がっていくのなら、それはどんなに嬉しいことだろう、やりがいがあることだろう、と考える。

そのためには日頃から、知る事が大切だと思う。ただ何となく思う、だけでは足りない。興味を持つたら調べる、疑問を持ったら調べる、と意識を持って行動することが大切だと思う。

少しずつ実践しているのは、まず新聞やニュースでわからない言葉が出てきたら国語の辞書で調べ、現代用語などのときはインターネットで調べるようにしていることだ。

この車椅子の場合では、機械についてだけではなく、障害者が日常生活を送る上で、どのように車椅子を動かすと快適なのか、といった具体的なことを知る事が必要だと感じた。

ドキュメンタリーを見てから、この方のブログを見に行くこともあり、彼女の生活を少し知る事ができた。車椅子については書かれていなかったけれど、きつと技術者の方と細かい打ち合わせをして作り上げたのだろうか。それはすごいことだと思う。

障害者がネットなどを通じて情報発信し、それを健常者が受け取り、交流が始まる、そういったことが繰り返し行われ、当たり前前の世界になって来れば、お互いにとってより良い世の中になるのではないだろうか？

そのように、知る事は誰にとっても力になると思う。